

1

?

2



オートモード
カンタン活用

4

3

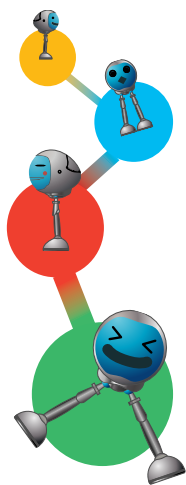
Introduction

オートモードの搭載目的と狙い

株式投資はギャンブルではありません。その時々々の情報に振り回されては決して良い結果は生まれません。「良い銘柄を良いタイミングで売買する」。このことが投資のリスクを抑え、安定した運用を可能にする基本であると、私達 GC は考えます。

今回新たに搭載したオートモードはその「良い銘柄を良いタイミングで売買する」ことを、自動プログラミングした機能であり、投資経験の浅い方やパソコンに不慣れな方にもシンプルな操作でお使いいただけます。

使い方は簡単です。



Step 1 では、ユーザー様の投資条件を幾つか入力して頂きます。

Step 2 では、弊社オリジナルのテクニカル指標 GCV を使って、最も高い収益率を上げた周期にコンピュータが自動調整を行う「最適化 GCV」が、買いタイミングが近づいていると判断した銘柄を自動的に選び出します。

Step 3 では、2 で選んだ銘柄を決算、財務、テクニカル指標などのあらかじめ登録された各種データにより絞込みます。ここで投資に適した銘柄かどうか判定されます。

Step 4 では、3 で選んだ銘柄の最終的な目標値を補助ツールを使用しながら決定します。あとは、この目標値に従って売買をしていただくだけです。

シンプルな操作でリスクを軽減した自動売買が可能となった画期的なシステムであるオートモード。ぜひ活用ください。



Contents

Introduction 3

●最適化 GCV とは？ 5

STEP 1 銘柄探しの条件を入力する

1 購入資金の入力 8
2 市場の選択 10
3 業種の選択 11
4 投資スタイルの選択 12

STEP 2 最適化GCVによる売買サイン点灯銘柄の抽出

1 最適化 GCV の「勝率」「利益率」について 16
2 「勝率」と「利益率」の関係について 17

STEP 3 銘柄をさらに絞り込む

1 銘柄をさらに絞り込む 20
2 各項目の説明 21

STEP 4 売買目標値を設定、アラートで出動！

1 グループ登録 26
2 目標値到達チェック 28
3 目標値到達チェック画面 29
4 フィボナッチ級数／フィボナッチ比率 30
5 フィボナッチ比率を示したチャート例 31
6 押し目、戻りのフシ目について 32
7 あなたが目標に決める上値メドや下値メドを入力 34

応用編 オートモードから少しでもオリジナルに思考を発展させる

● オートモードから少しでもオリジナルに思考を発展させる 40
● 課題 41
● オートモードに慣れてきたら... 45

最適化GCVとは？

株式投資においては銘柄選択と並んで、売買タイミングをどう捉えるかが大切なポイントになります。

大抵の場合、株価は波のように上昇と下落を繰り返す動きとなり、一連の動きの中では上昇から下落に向かうポイントがあり、反対に下落から上昇へ向かうポイントがどこかにあります。このポイント（いわゆる売買タイミング）を的確に探し当てることが出来れば、より効率的な売買が実現できるというわけです。

GCV は、この売買タイミングを的確なものに近づけることを目的とした指標であり、簡単に言うと株価が上昇したり、下落したりする際の「勢い」を数値化し、算出したものです。

さらに、これまでの GCV は、全ての銘柄を固定した周期で売買タイミングを図っておりましたが、今回さらなる改良を加え、ひとつひとつの銘柄毎に最も利益率の上がる売買タイミングを出せる周期の GCV をコンピュータで自動解析し、表示することとしました。これが『最適化 GCV』です。これにより個々の銘柄毎の固有の値動きやパターンにも、さらに対応が可能になっております。

最適化 GCV は日足、週足、月足ともに 156 本分のローソク足を算出期間と定めています。この期間で最も利益率の良い最適な周期の GCV とその GCV の移動平均線を表示します。この GCV が陽転 (GCV が下落から上昇へ転じるポイント) した時点で「注目」サインが点灯します。さらに GCV と GCV 移動平均線がゴールデンクロス (GCV が GCV 移動平均線を上へ抜くポイント) した時点で「買い」サインが点灯します。

これらのサインから、「オートモード」で絞り込まれた銘柄のチャートパターンを読み取り、売買タイミングのヒントとしてぜひお役立てください。

GCVの 注意点



GCV は指標の性格上、上記のサインが点灯したからと言って、必ずしもそこが株価の（その時点での）底値、天井値には成り得ないということがあります。つまり買いサインが点灯しても、そこから株価がさらに下げ続けるケースもあるということです。現実的な見方としては、サインが点灯したら「買うタイミングが近づいているかも知れない」と考え、その後の株価や GCV の動きにより注意を払うというのが、よりリスクを軽減させる売買手法と言えるでしょう。